

日経 STOCK リーグの参加

団体名●新ゼミナール／代表者名●新広昭（総合研究所・特任教授）

はじめに

今、企業活動には大きな変化が求められている。それは、ROE(株主資本利益率)至上の「株主資本主義」からSDGs・ESGをベースにした「ステークホルダー資本主義」すなわち、株主の利益ばかりでなく地域社会、従業員、消費者、取引先、国際社会、環境(自然生態系)といった多様なステークホルダーの利益を考えて企業活動を行うESG経営へのシフトである。ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の頭文字をとったものである。

新ゼミナールでは、SDGs・地域創生をテーマにゼミ活動を行っているが、その一環として企業のESG経営に着目したテーマで日経STOCKリーグに挑戦することとした。

この日経STOCKリーグは、学校教育の場における投資学習の1つのツールとして企画されたコンテンツ形式の金融・経済教育プログラムで、日本経済新聞社が主催し、野村ホールディングスの特別協力により実施されるものである。

活動内容

この取組みのキックオフとして、野村証券金沢支店を通じて野村ホールディングス株式会社に依頼し、同社サステナビリティ推進室の酒井様からWebで日経STOCKリーグの取り組み方やSDGs/ESG投資についてレクチャーしていただいた。

この講座には日経STOCKリーグに参加した新ゼミ及び壺内ゼミの学生が受講した。野村ホールディングスの本社の方から直接レクチャーを受けるのはまたとない機会であった。

新ゼミでは『脱炭素×次世代電池』のテーマで3人の学生が取り組んだ。

テーマの選定理由は、①次世代電池は脱炭素実現という視点から今後さらに重要になること、②正極材・負極材といった部品を含めた次世代電池の開発・製造分野で国際的に技術的優位性を有する企業が

日本には多いこと、などである。

次に、1次～3次スクリーニングを行い、投資企業を13社に絞った。

1次：電池やバッテリー製造企業及びその関連製品の製造・利用を行っている企業から絞り込み。

2次：財務指標(ROE、売上高、純利益)をもとにした分析から絞り込み。

3次：非財務指標をもとにした分析として、ESG投資を推進するGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)の保有株式への組み入れ比率(当該企業のGPIF保有株式数/発行済株式数)から絞り込み。

絞り込んだ企業のリターンとリスク分析を行い、ポートフォリオを決定した。この分析は壺内先生にご指導いただいた。



野村ホールディングスによる講座 (web)

成果、結果

学生にとっては、世界の潮流であるSDGsやESG投資、ESG経営を学ぶにあたり、日経STOCKリーグという具体的な目標に向けた学習を通じて「生きた経済」を学ぶことができたと考えられる。

成果、結果

世界的な低金利、コロナ禍の状況下で金融・証券業のビジネスモデルは大きく変化している。

今後とも金融・証券業界と連携して「生きた経済」を学ぶ機会を学生に提供していくことは重要であると考えている。